

1

2

のべ180名の参加



3

資料 1: アンケートのフォーム

[公開版 v1.04]

<https://scienceinijapan.org/topics/>「大学・研究機関でのいわゆる「雇止め問題」.html

4

大学・研究機関でのいわゆる「雇い止め問題」 についてのアンケート結果

[公開版 v1.04]

企画：

日本神経科学学会・将来計画委員会
日本学術会議・基礎医学委員会・神経科学分科会
SciREX「安定性と流動性を両立したキャリアパスの仕組みについて」の
定量的研究プロジェクト

アンケート実施協力：

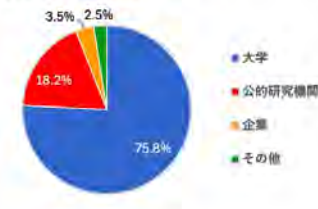
日本脳科学関連学会連合
生物科学学会連合
日本地球惑星科学連合
日本気象学会
日本エアロゾル学会
日本科学振興協会(JAAS)・研究環境改善ワーキンググループ

1. 自由記述で合計**30万字**を超える
悲痛な声！
2. 研究費を獲得している**トップレ
ベルの研究室主催者**、特殊な技
術・知識を有して**必要とされて
いる優秀な研究員/技術/事務補
佐員**ですら雇い止めせざるを得
ない大学・研究機関が多数！
3. **クーリングオフ**の事例が多数
4. 現状を見て**進学を躊躇**するとい
う若手の声も

5

1) 回答者の所属

2,465名の回答者のうち、約76%が大学、約18%が公的研究機関で、企業の所属は約3.5%、その他が約2.5%という内訳。



6

2) 回答者の職種・立場

回答者のうち、教員が約67%、研究員・ポスドクなどが約20%、学生が4.3%、企業が3.1%、技術員・研究/教務補助員などが約2.6%、それ以外が約2.7%という構成。



7

3) 回答者の任期

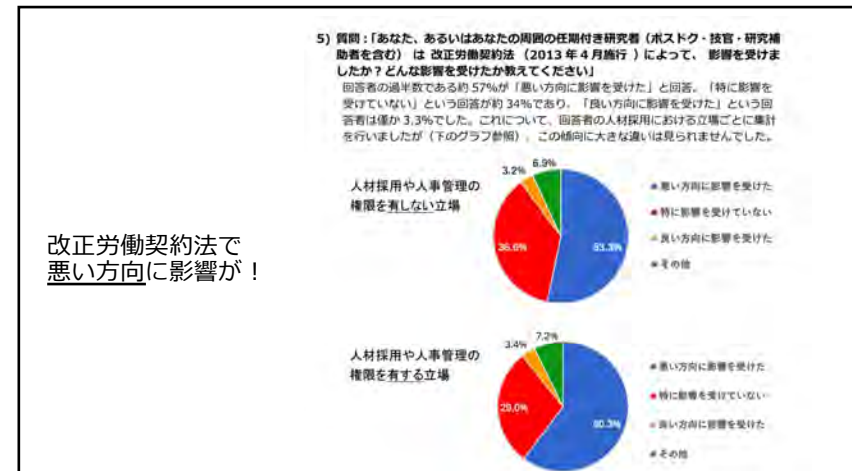
回答者の56%は任期無しであり、約40%が任期付き。



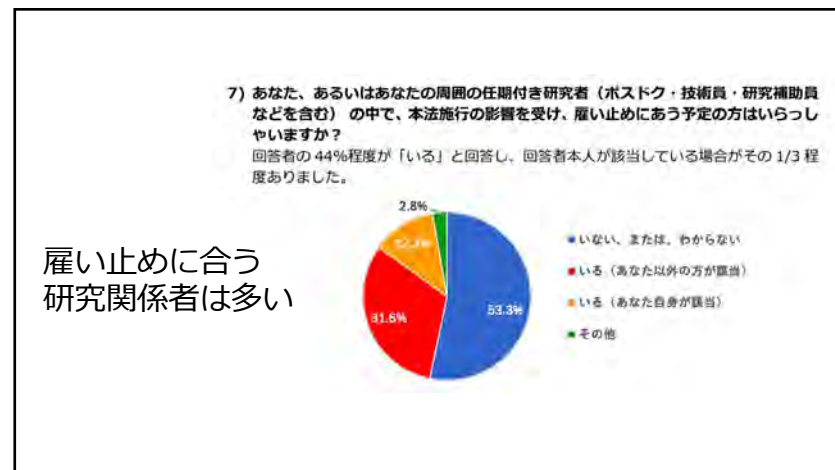
8



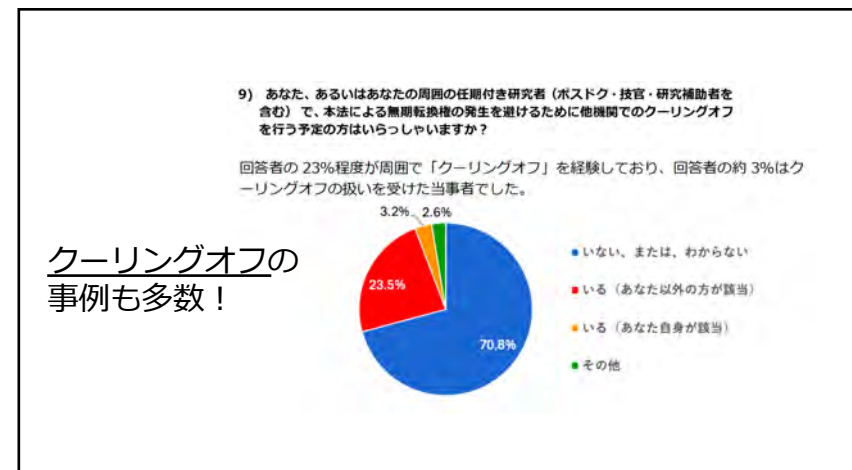
9



10



11



12

406. 10年の雇い止めにより来年度の契約更新はできないが、自身が研究代表者として取得した科研費が継続するため、6ヶ月間は所属のみ残して、大学との雇用契約を一度切って（無給料で失業保険で繋ぎ）、6ヶ月終了後にもう一度雇用することを提案されている。給料は出せないが、所属（名義）を残すことで科研費を返還せず事業を継続できると言われている。

資料4 自由記述全回答（10番の質問） P14
<https://sciencein japan.org/site/wp-content/uploads/2024/10/pub4.pdf>

13

大学・研究機関でのいわゆる「雇い止め問題」
 についてのアンケート結果

[速報版 v1.02]

企画：
 日本神経科学学会・将来計画委員会
 日本学術会議・基礎医学委員会・神経科学分科会
 SoREX「安定性と流動性を両立したキャリアパスの仕組みについての
 定量・定性的研究」プロジェクト

アンケート実施協力：
 日本脳科学関連学会連合
 生物科学学会連合
 日本地球惑星科学連合
 日本気象学会
 日本工アソシエーション
 日本科学振興協会(JAAS)・研究環境改善ワーキンググループ

1. 自由記述で合計**30万字**を超える悲痛な声！
2. 研究費を獲得している**トップレベルの研究室主催者**、特殊な技術・知識を有して**必要とされている優秀な研究員/技術/事務補佐員**ですら雇い止めせざるを得ない大学・研究機関が多数！
3. **クーリングオフ**の事例が多数
4. 現状を見て**進学を躊躇**するという若手の声も

14

盛山文科大臣との「博士のキャリアパス」 に関する意見交換



1. 「越境研究員制度（案）」についてのご相談
 宮川剛
 （麻田医科大学・教授；日本科学振興協会・グランドデザイン検討
 ユニット・リーダー）
2. 博士人材活躍プランについてのアンケート結果の
 紹介とお願い
 三田剛嗣
 （慶應大学・医・大学院生）
3. いわゆる「雇い止め問題」についての
 アンケート結果の紹介とお願い
 柚崎通介
 （慶應大学・医・教授；日本学術会議・神経科学分科会・委員長）
 高橋良輔
 （京都大学・学術研究開発センター・特定教授；
 日本脳科学関連学会連合・代表）

15

理系研究者8人に1人雇い止め

本アンケート結果の報道

毎日新聞 2024.10.19朝刊 1面と2面

大学10年貢献 あっさり解雇

無期転換ルール骨抜き

無期転換阻む「クーリング」横行

理系研究者12%「雇い止め予定」

理系研究者悲鳴な訴え

2024年10月19日（日曜日） 北海道新聞 朝刊 本紙 全道版 社会 34ページ

16

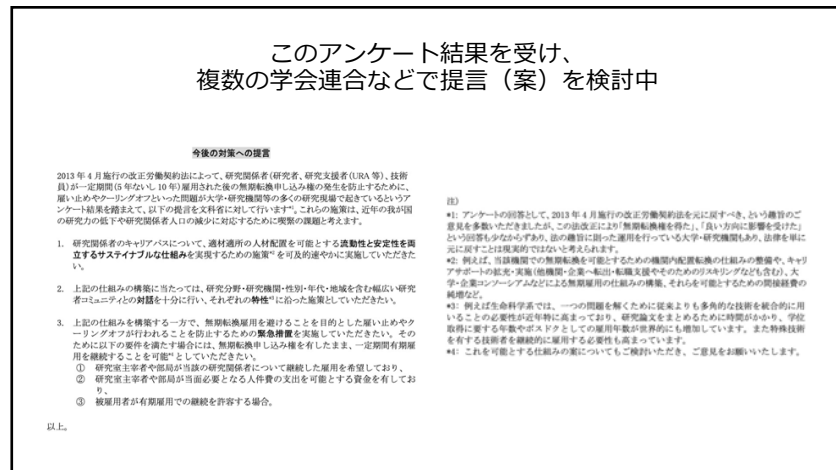


本アンケート 結果の報道

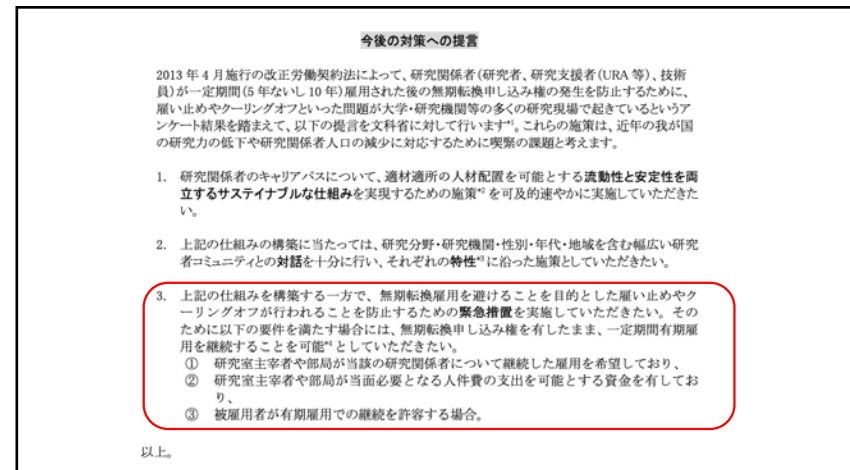
17



18



19



20

今後の対策への提言

2013年4月施行の改正労働契約法によって、研究関係者(研究者、研究支援者(URA等)、技術員)が一定期間(5年ないし10年)雇用された後の無期転換申し込み様の発生を防止するために、雇い止めやターニングオフといった問題が大学・研究機関等の多くの研究現場で起きているというアンケート結果を踏まえて、以下の提言を文科省に対して行います。これらの施策は、近年の我が国の研究力の低下や研究関係者人口の減少に対応するために喫緊の課題と考えます。

1. 研究関係者のキャリアパスについて、適材適所の人材配置を可能とする**流動性と安定性を両立するサステイナブルな仕組み**を実現するための施策[＊]を可及的速やかに実施していただきたい。

＊2: 例えば、当該機関での無期転換を可能とするための機関内配置転換の仕組みの整備や、キャリアサポートの拡充・実施(他機関・企業へ転出・転職支援やそのためのリスキリングなども含む)、大学・企業コンソーシアムなどによる無期雇用の仕組みの構築、それらを可能とするための間接経費の純増など。

21

SciREX 共進化実現プログラム
サイレックス事業

**安定性と流動性を両立した
キャリアパスの仕組み
についての
定量・定性的研究
(サブテーマ2)**

実施体制

● **研究実施者**

氏名	所属・役職
室田 弘子 (研究代表者)	九州大学 教授
北川 翔 (共同代表者)	慶応義塾大学 教授
田中 智之	京都医科大学 教授
中山 敬太	九州大学 助教 (2023年10月-2024年3月)

● **行政担当部署**

部署
文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室

<https://scirex.grips.ac.jp/project/coevolution3-7.html>

22

越境研究員制度 (案)

**競争的資金/自己資金で
無期雇用され
大学・企業・分野・職種の壁を
越境する
博士の人材プールの制度**



<http://scienceinjournal.org/topics/20130925.html>

23

知識生産活動では「**経済的安定**」が最重要!

■ 知識生産活動に関連して重要だと思う生活要因
研究・知識生産活動に影響を与える生活要因について当てはまるものを全て選択してもらった(図1)。



(N=1489)

図1 知識生産活動に関連して重要だと思う生活要因

日本学術会議・若手アカデミー「2040年の科学・学術と社会を見据えて いま取り組むべき10の課題」より

24

終身雇用の主観的価値は100～300万円/年！

10. あなたが、5年任期で年収700万円のポジション（審査の上、5年の更新が一回のみ可能）と、終身雇用のポジションのオファーを同時に受けたとします（30～40歳程度を想定してください）。以下のうちの年収であれば、終身雇用のほうを選びますか？他の各種条件については甲乙つけないとします。

281 件の回答



25

なぜ、任期付き？

1. 任期が導入されたのは 大学教員の流動性を高めるため

三 e-GOV 法令検索

平成九年法律第八十二号

大学の教員等の任期に関する法律

（目的）

第一条 この法律は、大学等において多様な知識又は経験を有する教員等相互の学問的交流が不断に行われる状況を創出することが大学等における教育研究の活性化にとって重要であることにかんがみ、任期を定めることができる場合その他教員等の任期について必要な事項を定めることにより、大学等への多様な人材の受入れを促し、もって大学等における教育研究の進展に寄与することを目的とする。

26

なぜ、任期付き？

2. 研究者の人件費ソースの 運営費交付金から 競争的資金（時限付き!） へのシフト

27

流動性を確保しつつ 競争的資金をもとに 安定したポジションを創出する案！



多様なキャリアパス
（流動性）

できるだけ多くの博士に
終身雇用（安定）を！

<http://scienceinJapan.org/topics/20130925.html>

28

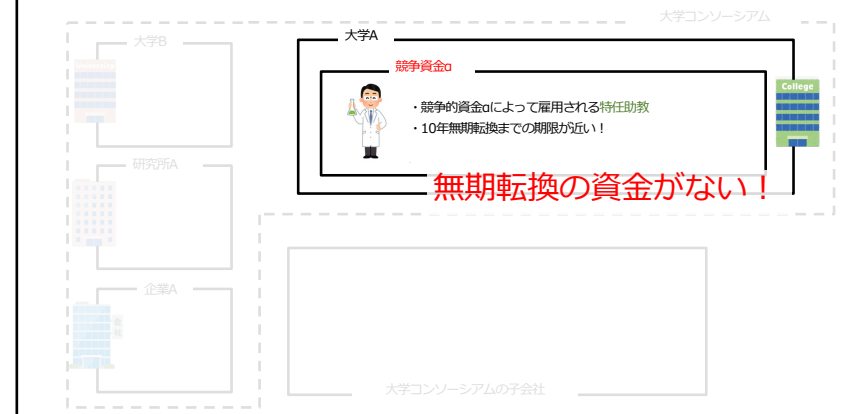
越境研究員制度（案）

1. 博士を大学コンソーシアムやJSPSなどが**終身雇用**（派遣元）
2. 大学や企業（派遣先）で博士は研究関連業務を行う
3. 競争的資金や自己資金で**派遣先が人件費**を負担
4. 職階は派遣先で付与（例：特任准教授、シニア・エンジニア等）

大きな追加予算なしで
終身雇用実現！
企業でのお試し雇用も促進！

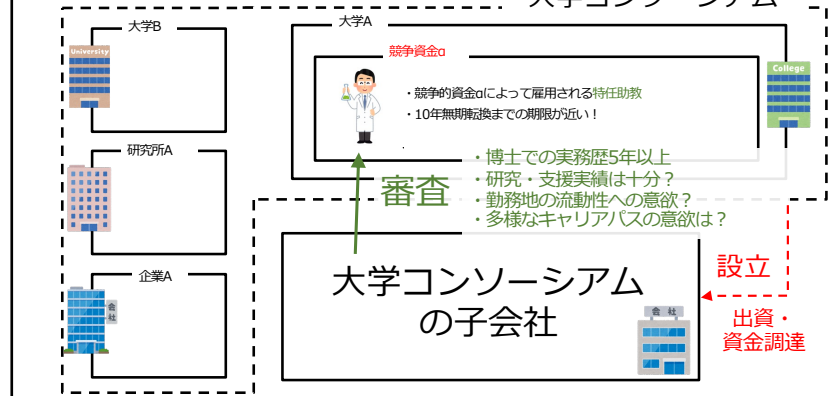
29

「越境研究員制度」の仕組み



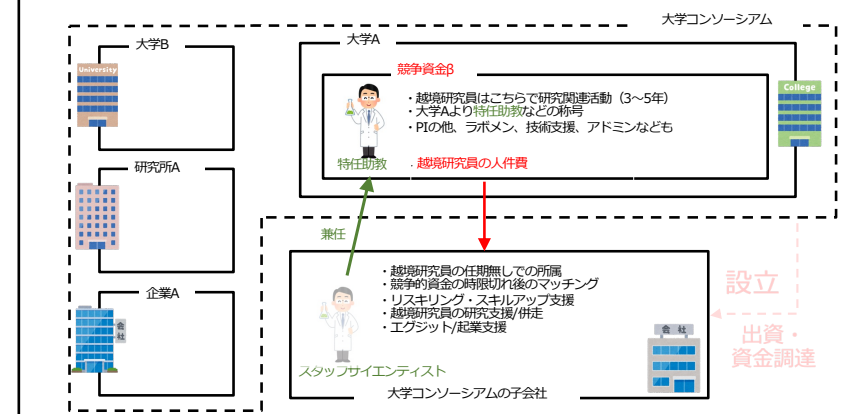
30

「越境研究員制度」の仕組み 大学コンソーシアム

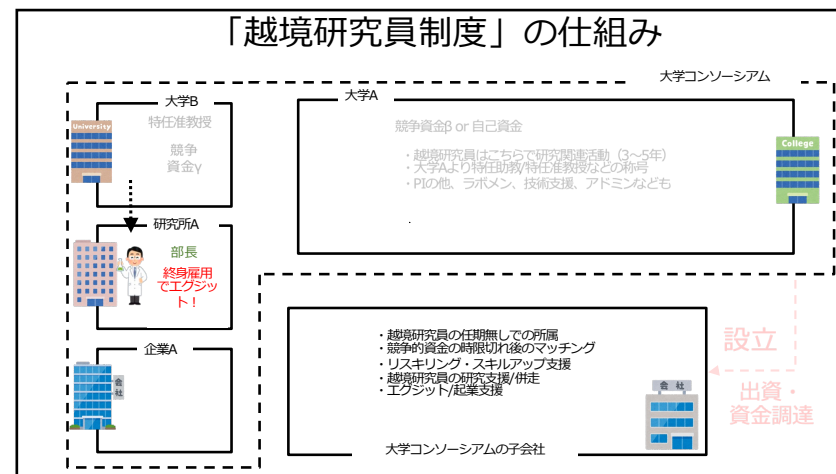
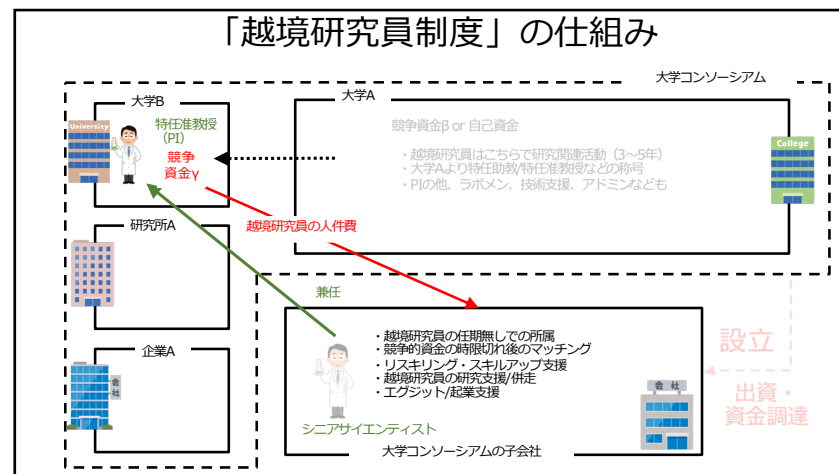


31

「越境研究員制度」の仕組み



32



SciREX 共進化実現プログラム
サイレックス事業

**安定性と流動性を両立した
キャリアパスの仕組みについての定量・定性的研究
(サブテーマ2)**

安定性と流動性を両立したキャリアパスの仕組みについて

1. 有識者、企業関係者へのインタビュー実施
2. 関連のイベントの開催と意見の聴取
3. 定量的アンケートの実施
4. 具体的な仕組みの提案

JAAS関係者と若手中堅国会議員の意見交換会

第一回 2023年3月22日（水）、第二回 2023年6月12日（月）、第三回2024年5月23日

- ・ 平将明（現・デジタル副大臣）
- ・ 大野敬太郎（科学技術イノベーション戦略調査会長；博士（情報理工学））
- ・ 小林鷹之（元・科学技術政策担当大臣）
- ・ 牧島かれん（元・デジタル大臣；博士（学術））
- ・ 小林史明（元・デジタル副大臣；
新しい資本主義実行本部事務局長）

越境研究員制度（案）について
もご説明し、前向きなご意見を
いただいた



日本学術会議
「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」
にお願いしたいこと

1. 研究者の**ポストの安定化**へ向け
研究コミュニティとしての努力をぜひ！
2. 官僚・政治家・産業界・一般市民も交えつつ
研究コミュニティ内外での**対話**の活発化を！